

待ち望む：アドベント イザヤ書 9章 1-7節 主を待ち望み喜びを得る

アドベントの3週目に入りました。すでに述べたように、アドベントはキリストの再臨に焦点を当て待ち望む季節です。しかし、このキリストの再臨への待望は、罪によって墮落した世界で起こります。その罪が私たちの罪であれ、私たちの周りで見られる罪とその影響であれ、私たちがキリストから目を離してしまう時、私たちの希望は失われる可能性があります。また、キリストを知ることから得られる平安も、神の御言葉にある神のものを探し求めるのではなく、この世のものに心を奪われてしまう時に、失うことがあります。今日、待降節第3聖日は、私たちの人生を特徴づけるはずなのに、この世で見失いがちな、この待ち望む季節のもう一つの側面に私たちを導いてくれます。それは、イエス・キリストを知り、イエス・キリストが再臨されるという確信を持つことによって得られる喜びです。今朝もまた、イザヤ書をテキストとします。イザヤ書9章1節から7節は、私たちがこの地上での人生という待ち望む季節に喜びを見出す助けとなるでしょう。

イザヤ書 9章 1~7節 9:1 **しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。2** **闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。3** **あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。4** **あなたが、彼が負うくびきと肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように打ち碎かれるからだ。5** **まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。6** **ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7** **その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。**

まずイザヤ書9章1節から読みましょう。**1** **しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。**

旧約聖書のいくつかのヘブライ語原典では、1節は8章の終わりにつながっています。しかし、この節は、神を拒んだイスラエルの国についての8章の描写の最後を締めくくる暗闇から移行する節として機能しているようです。8章の最後の節で使われているのは暗闇という言葉ですが、9章の最初の節では、**しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。**と、暗い状況を逆転させています。

この世界はさまざまな意味で暗黒の地と言えるようです。この言葉には暗黒と絶望という意味が含まれている。そして、これは間違いなくこの世界の多くの人々が経験していることを表しています。アメリカでは今年、成人の29%がうつ病と診断されたという新記録が打ち立てられました。日本では、厚生労働省の最新の統計によれば、特に12歳から18歳の間でうつ病の問題が大きくなっており、その年齢層の10%がうつ病を患っていることを示しています。そして、これがうつ病と診断されたケースを表しているとなれば、助けを求めない人々の実際の数がどれほど多いか想像してみてください。

”私たちの世界に暗い雰囲気漂っていることを考えると、この聖句の冒頭にある**苦しみのあったところに闇がなくなる。**というメッセージは、大変な朗報であるはずですが！もしかしたら、あなたは今日、憂鬱な気分でごここにいる、喜びがどこにあるのか知りたいと思っているかもしれません。この1節から始まる箇所を考えてみると、誰にでも手に入る喜びの源があることがわかります。その喜びの源がどこにあるのか、ここにヒントがあることに注目してください。それは、暗い状況を逆転させる場所、ガリラヤにあります。侮辱を受けると言われたゼブルンの地とナフタリの地がガリラヤにあることは重要です。地図上でナフタリとゼブルンを赤丸で囲み、それを覆う斜線部分がガリラヤ地方です。北イスラエル王国のこれらの地域は、アッシリアに最初に制圧された地域です。9節にあるようなことを、イスラエルで最初に経験した地域の一つなのです。**戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる**

しかし、かつて偉大な国であり、国々に対して神を代表するはずだったイスラエルのこの地域は、神の栄光を示し、世界に存在する憂いを取り除く源となるはずでした。

ですから、ガリラヤで起こることは何でも、喜びを回復する上で重要な意味を持つのです。そして2節では、ガリラヤで喜びをもたらす出来事が何であるかを説明し始めます。**2 闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。**

この特定の節は、私たちが目にするこの喜びの源がイエスご自身であることを示す点で重要です。マタイの福音書4章を見ると、ガリラヤ、ゼブルン、ナフタリ、そして光の源としてのイエスとのつながりが見えます。

マタイの福音書4章12-17節12 イエスはヨハネが捕らえられたと聞いて、ガリラヤに退かれた。13 そしてナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある、湖のほとりの町カペナウムに来て住まれた。14 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。15 「ゼブルンの地とナフタリの地、海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦人のガリラヤ。16 闇の中に住んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が昇る。」17 この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

つまり、これは明らかにイエスの預言なのです。その後続くのは、イエスを信じることによって、個人として、また神の民の集団として、人々の人生に何が起こるかについての記述です。

旧約聖書で、イザヤは来るべきメシアという神の約束への信仰を指し示していました。今、私たちは、そのメシアがイエス・キリストであることを確信し、これらの箇所を結びつけることができます。しかし、イエス・キリストに従う現代の私たちにとっても、神のイザヤ書で約束された到来するメシアを信じた人々にとっても、喜びという共通の結果があります。3-5節を読んでみましょう。

3 あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。4 あなたが、彼が負うくびぎと肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように打ち碎かれるからだ。5 まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。

ここに喜びがあります！マタイの福音書からイエス・キリストであることがわかる救い主がガリラヤから現われるとき、それは神の民にとって喜びと歓喜の理由となります。彼らの喜びは2つの理由から来ますが、別の見方をすれば、イエス・キリストとの関係に喜びが見出される理由を示す2つの例が与えられているということです。最初の喜びの理由は、収穫の例にあります。もちろん、ここ横浜で農耕社会で生活している人はほぼいません。土で育てたもので生計を立てたり、育てたもので次の食事を作ったりしている人はほとんどいないはずですが、しかし、イザヤ書の時代の農民を想像してみてください。スーパーもコンビニもありません。レストランもありません。農業以外の仕事もありますが、遠距離から食料を輸入する交通手段がないため、いまだに食べるためには地元の農家に大きく依存する社会です。

家族のためだけでなく、より大きな社会のために食料を生産するために、農業がどれほど大変であったか考えてみてください。現代の農業はありません。もちろん、近代的な技術がなくても豊富な作物を育てる方法はたくさん開発されていましたが、彼らはもっと天候に完全に依存していました。実際、神が律法に示した方法に従えば、現代の科学が何世紀もかけて最良の農法だと言うようなことをしていたのです。しかしそれでも、土地を耕し、作物を植え、降雨を祈り求め、雑草や虫や動物を遠ざけ、ついに豊作をもたらしたときの農夫と農夫の家族の喜びと高揚感を想像して下さい。多くの農耕社会では、収穫の時期には盛大なお祝いが行われます。日本でも、11月23日の勤労感謝の日は、古代の五穀豊穡を祝う収穫祭であった新嘗祭（にいなめさい）に由来する現代の祝日です。つまり、喜びは神が収穫を与えてくれたことに由来するのです。

しかし、イエスによってもたらされる喜びの第二の源があります。それは自由です。イザヤは、ここに至るまでの箇所、神からの多くの破壊と裁きを預言しています。イザヤは基本的に、彼らがイスラエルの地から追放され、肉体的に捕囚の期間に入ることを約束しているのです。新約聖書のガラテヤ3:22-23の2節をぜひ見てください。**ガラテヤ人への手紙3章22-23節しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人たちに与えられるためでした。23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。**

この聖句は、律法、すなわち旧約聖書の聖句が、私たちはみな罪人であることを示している、と言っています。ローマ人への手紙3章23節、**すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられず**だからです。もしあなたが今日ここにおいて、自分の罪を悔い改めず、キリスト・イエスを主であり救い主として受け入れてい

ないなら、あなたがそれを認識しているかいないかにかかわらず、あなたは罪に囚われているのです。神は御言葉である聖書を通して、イエスのいない自然な状態の人間は皆、罪人、つまり私たちの創造主である聖書の神に背き、反抗して生きている者として断罪されていることを明らかにしています。しかし、イザヤ書の預言を最初に聞いた人たちが、抑圧者のくびき、杖、棒からの解放によって喜びがもたらされることを聞いたように、その喜びは、罪の抑圧と奴隷状態からすべての人が得ることができます。その自由とその結果もたらされる喜びは、イエス・キリストによってもたらされるのです。

そしてイザヤは、この祝福と解放による喜びの約束から、旧約聖書の中で最も明確なイエスの預言のひとつを6節から続けています。

6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

イザヤ書の文脈では、この子供の預言はイザヤ書 7:14 に遡ります。イザヤ書 7章 14節 14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。これらの聖句は、インマヌエルという名のこの子について述べています。新約聖書はイザヤ書 9章 6-7節を引用していませんが、マタイの1章では何が明らかにされていると思いますか？...イエスはイザヤ書 7章 14節で約束された子です。イエス・キリストの誕生を述べた後、福音書記者マタイは、イザヤ書から700年後のマタイ 1章 22-23節で次のように書いています。マタイの福音書 1章 22~23節 22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。23 見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

だから、もしイザヤ書 7章 14節が直接イエスのことを言っていて、イザヤ書 9章 6~7節がその節に登場する子供のことを言っているのなら、それはイエスのことを言及していることになります。そして、なんと！このイエスの描写を見てください。先週私たちが見た完全な平和をもたらす究極的な政治は、完全にイエス、そしてイエスの聖なる御性質の全能、その力に依存します。イエスは、他のどんな世界の指導者にもなり得ない方法で、まさに**平和の君**と呼ばれることができるのです。私たちは、彼に与えられた**力ある神**という名前に、その全能性、全能であるという性格的特質を見ることができます。そして、その名前の中に、イエスが全能である理由は、イエスが神であるからであることが示されています。イエスは普通の人間ではありませんでした。私たちの永遠の救いのために、そしてそれゆえに私たちの喜びのために、すべての違いをもたらすのは、イエスが完全な神であると同時に完全な人間であるということです。完全な人間として、同じ人間として私たちに代わって十字架にかかることができましたが、完全な神として、私たちの罪のための罪なきいけにえとして私たちに代わって十字架にかかることができたのです。しかし、この聖句には、イエスについて他に2つの重要な呼び名があります。**不思議な助言者、永遠の父**。通常、私たちはイエスが私たちの助言者であるとは考えません。イエス御自身が、聖霊を私たちの助言者として遣わすと言っています。

ヨハネの福音書 14章 16~17a節 **そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。**

ヘルパー、助け手、という言葉はカウンセラー、助言者、とも訳せます。つまり、聖霊は神の言葉を私たちの人生に適用しながら、私たちが直面する問題に対して必要な助言を直接与えてくださるのです。そして新約聖書は、父なる神とその子として養子縁組された私たちとの間の橋渡しをすることができる唯一のお方であるイエスを、父ではなく神の子としてはっきりと明らかにしています。ヨハネの福音書 14章 6節 6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければだれも父のみもとに行くことはできません。

ですから、イエス御自身は助言者や父として特別に特定されることはないかもしれませんが、その両方への直接のアクセスの源なのです。イエス・キリストを救い主、主として受け入れなければ、神を父とする神との関係を持つことはできません。イエス・キリストを主であり救い主として従わなければ、聖霊とその導きによる慰めも得られません。

では、喜びはどこから来るのでしょうか？父、子、聖霊の三位一体として存在し、2000年以上前のクリスマスの朝にベツレヘムで幼子として生まれた御子イエス・キリストを通してのみアクセスできる宇宙の神との関係です。厳密に人間的な視点から見れば、それは私たちが罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れることのように見えます。しかし、私はこの箇所の一節を忘れたくありません。**万軍の主の熱心がこれを成し遂げる**。救いはすべて神の御業です。神は永遠の過去において、御自身のものとなる人々を選ばれました。そして、私たちの罪の代価を十字架で支払うために、御子イエス・キリストを遣わされました。そして聖霊は、神に選ばれた人々を再生させ、彼らが自分の罪を認識し、イエス・キリストを信じ、彼を主であり救い主として受け入れることができるようにされます。これが神の救いの御業です。だからといって、私たちが個人的にイエス・キリストを受け入れたり、イエス・キリストの福音を他の人々に伝えたりする責任を免れることはありません。そしてそれこそが、私たちの人生における真の喜びへの唯一の道となるのです。まだ気づいていないかもしれませんが、この3週間で見てきた希望の平和と喜びには共通点があります。それは、神の御言葉の中で私たちに啓示されているイエスを通してもたらされるものだということです。だからこそ、私たちはイザヤ書を読み、マタイ書に目を向けると、イエスが預言の成就者であり、喜びを与える方であることを知ることができるのです。このクリスマス・シーズンに、ぜひ自分自身に贈り物をしてください。自分自身に神の御言葉をプレゼントするのです。一銭もかかりません。無料です！皆さん、おそらくお持ちでしょうし、ダウンロードすることもできます。あるいは、私たちからのプレゼントとして、あなたの前の置き棚にある聖書をお持ち帰りいただくこともできます。しかし、クリスマスや一年のどの時期であっても、あなたの人生に与えられる最高の贈り物は、希望と平和と喜びです。そしてそれは、イエス・キリストを知り、イエス・キリストに近づくことでしか得られません。そしてそれは、神の御言葉に触れる時間によってのみ得られる。だから、自分自身に神との時間をプレゼントし、神の希望、神の平和、神の喜びを知るために、神がイエス・キリストを通して示してくださったすべての愛を体験してください。来週は、クリスマス・イブにアドベント2023を締めくくるにあたり、イエス・キリストの再臨を待ち望む私たちに希望と平安と喜びを可能にしてくれる、神がイエス・キリストにおいて私たちに示してくださったこの愛について見ていきましょう。祈りましょう。

While We Wait: Advent Isaiah 9:1-7 Finding *Joy* during the wait

We are now on the third week of Advent. As we have already discussed, Advent is a period of waiting with a focus on Christ's return. But this anticipation of Christ's return happens in a world that is corrupted by sin. Our hope can be lost when we allow that sin to take our eyes off Christ, whether that is our sin or sin and its effects we see around us. And our peace that comes from knowing Christ can also be disrupted when we become consumed by the things of this world, rather than seeking out the things of God in His Word. Today, the third Sunday of Advent leads us to another aspect of this season of waiting that should characterize our lives, but is so easy to lose sight of in this world. That is the joy that comes through knowing Jesus Christ, and having the assurance that he will return. Once again, we will go to the book of Isaiah for our text this morning. Isaiah 9:1-7 will help us to find Joy during the wait that is our life here on earth.

Let's begin reading at Isaiah 9:1. **9 But there will be no gloom for her who was in anguish. In the former time he brought into contempt the land of Zebulun and the land of Naphtali, but in the latter time he has made glorious the way of the sea, the land beyond the Jordan, Galilee of the nations.** Verse 1 is actually connected with the end of chapter 8 in some original Hebrew manuscripts of the Old Testament. But it seems to act as a verse to transition from the gloom that ends the description in chapter 8 of the nation of Israel as it has rejected its God. Gloom is actually the word used in the last verse of chapter 8, but then the first verse of chapter 9 shows a reversal of the gloomy situation by saying, **"there will be no gloom for her who was in anguish."** It seems that this world in many ways could be said to be a place of gloom. This word carries the sense of darkness and despair. And this definitely describes what many people in this world experience. This year in the United States, a new record was set that 29% of all adults have been diagnosed with depression at some time in their lives. In Japan, the latest statistics here indicate this is a growing problem especially among 12-18 year olds, where 10% of that age group suffers from depression according to the Japanese Ministry of Health, Labor and Welfare. And if this represents the diagnosed cases of depression, imagine how prevalent the real numbers are with those who do not seek help.

Given the state of gloom that would seem to exist in our world, the message that begins these verses, that there will be **"no gloom for her who was in anguish..."** should be great news! Maybe you are in here today experiencing gloom and depression, and you just want to know where joy is. As we consider these verses starting right here in verse 1, we see a source of joy that is available to everyone. Notice that there is a hint here about where that source of joy lies. And it is in the location of where the reversal of the gloomy situation will come from, Galilee. It is significant to know that the land of Zebulun and the land of Naphtali which were said to be brought into contempt are in Galilee. **You can see on the map Naphtali and Zebulun circled in red, and the shaded area that covers them is the area of Galilee.** These parts of the Northern kingdom of Israel were some of the first ones that were overrun by Assyria. They were one of the first areas of Israel that experienced what verse 9 describes as **"every boot of the tramping warrior in battle tumult and every garment rolled in blood."** But this area of Israel that marked the downfall of this once great nation that was supposed to represent God to the nations will be the source of God displaying his glory and removing the gloom that exists in the world.

So whatever happens in Galilee will be significant in restoring joy. Verse 2 then begins to describe what it is that will happen in Galilee that brings joy. **2The people who walked in darkness have seen a great light; those who dwelt in a land of deep darkness, on them has light shone.** This particular verse is significant in showing us the source of this joy that we will see is Jesus himself. When we look at Matthew 4, we see the connection with Galilee, Zebulun, Naphtali and Jesus as the source of light. [Matthew 4:12-17](#) says, **12** Now when he heard that John had been arrested, he withdrew into Galilee. **13** And leaving Nazareth he went and lived in Capernaum by the sea, in the territory of Zebulun and Naphtali,**14** so that what was spoken by the prophet Isaiah might be fulfilled: **15** “The land of Zebulun and the land of Naphtali, the way of the sea, beyond the Jordan, Galilee of the Gentiles— **16** the people dwelling in darkness have seen a great light, and for those dwelling in the region and shadow of death, on them a light has dawned.” **17** From that time Jesus began to preach, saying, “Repent, for the kingdom of heaven is at hand.” So, this is clearly a prophecy of Jesus. What follows is a description of what happens in the lives of people as individuals and the collective people of God as they believe in Jesus. In the Old Testament, Isaiah was pointing them to faith in God’s promise of a Messiah to come. Now, we can see with certainty who that Messiah is in Jesus Christ, and tie these passages together.

But for us today who follow Jesus Christ, and for those who believed in God’s coming Messiah promised in Isaiah, there is one common result - Joy. Let’s read on to see this in verses 3-5. **3You have multiplied the nation; you have increased its joy; they rejoice before you as with joy at the harvest, as they are glad when they divide the spoil. 4For the yoke of his burden, and the staff for his shoulder, the rod of his oppressor, you have broken as on the day of Midian. 5For every boot of the tramping warrior in battle tumult and every garment rolled in blood will be burned as fuel for the fire.** Here is the joy! When the Savior, who we know from Matthew’s connection is Jesus Christ is revealed from Galilee, it will be a cause for joy and rejoicing for the people of God. Their joy comes from two sources or possibly another way to look at it is that we are given two examples that show us why there is joy found in a relationship with Jesus Christ. The first cause for joy is found in the example of a harvest. Now, of course, here in Yokohama, none of us are living in an agrarian society. I’m pretty certain that none of us in here are making a living by what we grow in the soil, or depending on what we grow to prepare our next meal. But I want you to imagine with me that you are a farmer in the days of Isaiah. There are no grocery stores. There are no restaurants. There are other jobs that are not farming, but in order to eat, the society is still heavily dependent on local farmers for food, since transportation is not available to import food from long distances. Think about how hard farming is in order to not only produce food for your family, but for the greater society. There are no modern pesticides. They were much more dependent completely on the weather, although of course they had developed many ways to grow an abundance of crops even without modern techniques. In fact, if they followed the methods God laid out in the law, they were doing things that it would take modern science centuries to say were best farming practices. But still, consider the joy and elation that the farmer and farmer’s family would feel once they had cultivated the land, planted the crops, prayed for rain, kept the weeds, insects and animals away and had finally brought in a good harvest. In many agrarian societies, a large celebration is held at harvest time. Even here in Japan, Labor Thanksgiving Day that is celebrated on November 23 is the modern holiday that comes directly from Niiname-Sai or Shinjoo-

Sai (新嘗祭) which was an ancient harvest festival celebrating the autumn harvest of the 5 grains. So, joy came from God's provision of a harvest.

But there is a second source of joy that comes through Jesus. That is freedom. Isaiah has prophesied much destruction and judgement from God in the passages leading up to this. He has basically promised them that they would be in a period of captivity physically by being deported out of the land of Israel. I want you to look at 2 verses in the New Testament, [Galatians 3:22-23](#). **22 But the Scripture imprisoned everything under sin, so that the promise by faith in Jesus Christ might be given to those who believe. 23 Now before faith came, we were held captive under the law, imprisoned until the coming faith would be revealed.** These verses are saying the Law, the Old Testament Scripture shows us that we are all sinners, because we have all failed to actually keep that law and obey God. So it shows the truth of [Romans 3:23](#), **23 for all have sinned and fall short of the glory of God**... Galatians says then that we are imprisoned under sin. If you are here today, and have not repented of your sin and accepted Christ Jesus as your Lord and Savior, then you are trapped in sin, whether you recognize it or not. God through His Word, the Bible, makes it clear that every human in our natural state without Jesus is condemned as a sinner, someone who lives in a state of disobedience and rebellion to our Creator, the God of the Bible. But just as the first hearers of Isaiah's prophecy heard that joy would come through deliverance from the yoke, the staff and the rod of their oppressors, that joy is available to all from the oppression and enslavement of sin. That freedom and the joy that results comes through Jesus Christ.

And Isaiah continues from this promise of joy through blessing and deliverance to give one of the clearest prophecies of Jesus in the Old Testament starting in verse 6. **⁶For to us a child is born, to us a son is given; and the government shall be upon his shoulder, and his name shall be called Wonderful Counselor, Mighty God, Everlasting Father, Prince of Peace. ⁷Of the increase of his government and of peace there will be no end, on the throne of David and over his kingdom, to establish it and to uphold it with justice and with righteousness from this time forth and forevermore.** In the context of Isaiah, this prophecy of a child refers back to [Isaiah 7:14](#). **14 Therefore the Lord himself will give you a sign. Behold, the virgin shall conceive and bear a son, and shall call his name Immanuel.** These verses are describing this child whose name is Immanuel. And while the New Testament does not quote Isaiah 9:6-7, guess what is made clear in Matthew 1? ...That Jesus is the child promised in Isaiah 7:14. After describing the birth of Jesus Christ, the gospel writer Matthew writing 700 years after Isaiah in [Matthew 1:22-23](#) says, **22 All this took place to fulfill what the Lord had spoken by the prophet: 23 "Behold, the virgin shall conceive and bear a son, and they shall call his name Immanuel" (which means, God with us).**

So if Isaiah 7:14 is directly talking about Jesus and Isaiah 9:6-7 is describing the child in that verse, then it is describing Jesus. And wow! Look at this description of Jesus. The ultimate government that brings the complete peace that we looked at last week will completely depend on Jesus, and the omnipotent, all powerful strength of his holy character. He can truly be called the **Prince of Peace** in a way no other world leader could ever be. We see that omnipotence, the character quality of being all powerful in the name he is given **Mighty God**. And within that name, we see that the reason he is all-powerful is that he is God. Jesus was and is no ordinary human being. What makes all

the difference to us for our eternal salvation and therefore our joy is that Jesus is fully God while also fully man. As fully man, he could go to the cross on our behalf as a fellow human, but as fully God, he could go to the cross on our behalf as the sinless sacrifice for our sin. But there are two other significant names for Jesus in these verses – **Wonderful Counselor** and **Everlasting Father**. Usually, we don't think of Jesus as our Counselor. Jesus himself says that he sends the Holy Spirit as our Counselor. **John 14:16-17a says, And I will ask the Father, and he will give you another Helper, to be with you forever, 17 even the Spirit of truth**... The Word helper could also be translated as Counselor. In other words, the Holy Spirit provides the direct counsel we need for the problems we face as He applies the Word of God to our lives. Then the New Testament clearly reveals Jesus as the Son of God, not the Father, who is the only one who can bridge the gap between God the Father and us who are adopted as his children. **John 14:6 says, 6 Jesus said to him, "I am the way, and the truth, and the life. No one comes to the Father except through me.** So while Jesus himself may not be identified specifically as Counselor or Father, he is the direct source of Access to both. Without accepting Jesus Christ as your Savior and Lord, you do not have a relationship with God that makes him your Father. Without following Jesus Christ as Lord and Savior, you also do not have the Holy Spirit and his guiding comfort in your life, either.

So where does joy come from? A relationship with the God of the Universe, who exists as a Trinity of Father, Son and Spirit, and who we only access through God the Son, Jesus Christ, who was born as a child in Bethlehem on Christmas morning more than 2000 years ago. From a strictly human point of view, that looks like us repenting of our sin and accepting Jesus Christ as our Lord and Savior. But I don't want to forget the final line of this passage, **The zeal of the Lord of hosts will do this**. Salvation is ALL God's Work. God elects those who will be his own in eternity past. He sent his son Jesus Christ to pay the price for our sin on the cross. The Holy Spirit then regenerates those who are chosen by God so that they can recognize their sin, believe in Jesus Christ and accept him as Lord and Savior. This is God's work of salvation. And none of that relieves us of our responsibility to personally accept Jesus Christ or to share the good news of Jesus Christ with others. And that will be the only way to true joy in our lives. If you haven't noticed yet, hope peace and joy that we have looked at in the last 3 weeks share one thing in common. They come through Jesus, who is revealed to us in the Word of God. It is why we can read the book of Isaiah and turn to Matthew and see Jesus as the fulfillment of prophecy and the giver of joy. Can I encourage you this Christmas season to give one gift to yourself. Give yourself the gift of the word of God. The best part is, its free! All of you likely have it, or you can download it. Or you can take the one in the pew rack in front of you home with you as our gift to you. But the best gift you can have in your life at Christmas or any time of the year is Hope, Peace, and Joy. And it is only found in knowing Jesus Christ and growing closer to him. And that only comes through time in God's Word. So give yourself the gift of that time with God and experience all the love he has shown you through Jesus Christ in order to know his hope, his peace and his joy. Next week as we wrap up Advent 2023 on Christmas Eve, we will look at this love God showed us in Jesus Christ that makes the hope, peace and joy possible as we wait for his return. Let's pray.